

オリンピックに関して—台湾編

異例づくしと称された東京オリンピックの17日間の熾烈な戦いが終わり、8月8日に閉会式を迎えました。

スポーツに全く興味がない私ですが、台湾人の選手が表彰台に立ち、台湾の国歌（正式には国旗歌）が流されたときに、今まで経験したことのない感動で胸がいっぱいになりました。

その瞬間に様々な思いが頭の中を駆け巡りました。長年中国の政治的圧力により、台湾がオリンピック大会で「中華民国」という自分の国の名前、国旗、国歌の使用さえ認めてもらえなかったことです。また、将来的には職業としては食べていけないという理由で、台湾はスポーツがあまり盛んではなく、選手たちにとっては決して恵まれている環境とは言えませんでした。それにもかかわらず、たった68人の選手団で金2つ、銀4つ、銅6つも獲得しました。とても誇りに思い、勇気をもらいました。